

第 14 回霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

日時：平成 24 年 12 月 11 日（火） 14 時 00 分～16 時 00 分

場所：中央区立 築地社会教育会館 2 階, 第一洋室

東京都中央区築地 4-15-1

議 事 次 第

1. 開 会

2. 挨 拶

国土交通省 霞ヶ浦河川事務所 所長 畠山 慎一
東京工業大学 名誉教授 池田 駿介

3. 議 事

- 議題－1 第 13 回評価検討会議事 要旨の確認
- 議題－2 評価報告書（仮称）の目次（素案）
- 議題－3 今後のスケジュール

4. 閉 会

[配付資料]

資料－1	議事次第, 出席者名簿, 座席表	
資料－2	第13回評価検討会 議事要旨	議題－1
資料－3	中間評価と評価報告書(仮称)の目次構成 対比表	議題－2
資料－4	霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策 評価報告書(仮称)の目次(素案) ..	議題－2
資料－5	緊急保全対策工の地区別評価のとりまとめ方針(素案)	議題－2
資料－6	今後のスケジュール(案)	議題－3

第14回 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

出席者名簿

■「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」委員

専門分野	氏名	所属	出欠
環境水理学・流体力学	池田 駿介	東京工業大学 名誉教授	出
海岸工学	佐藤 慎司	東京大学大学院工学系研究科教授	出
植物生態学	角野 康郎	神戸大学理学部生物学科教授	出
植物生態学	佐々木 寧	埼玉大学大学 名誉教授	出
陸水生態学・生態毒性学	花里 孝幸	信州大学山地水域環境保全学部門長教授	出

■オブザーバー 「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」委員

専門分野	氏名	所属	出欠
保全生態学	鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	出

事務局	氏名	所属	出欠
	畠山 慎一	国土交通省 霞ヶ浦河川事務所長	出
	高橋 武彦	(独)水資源機構 利根川下流総合管理所長	出

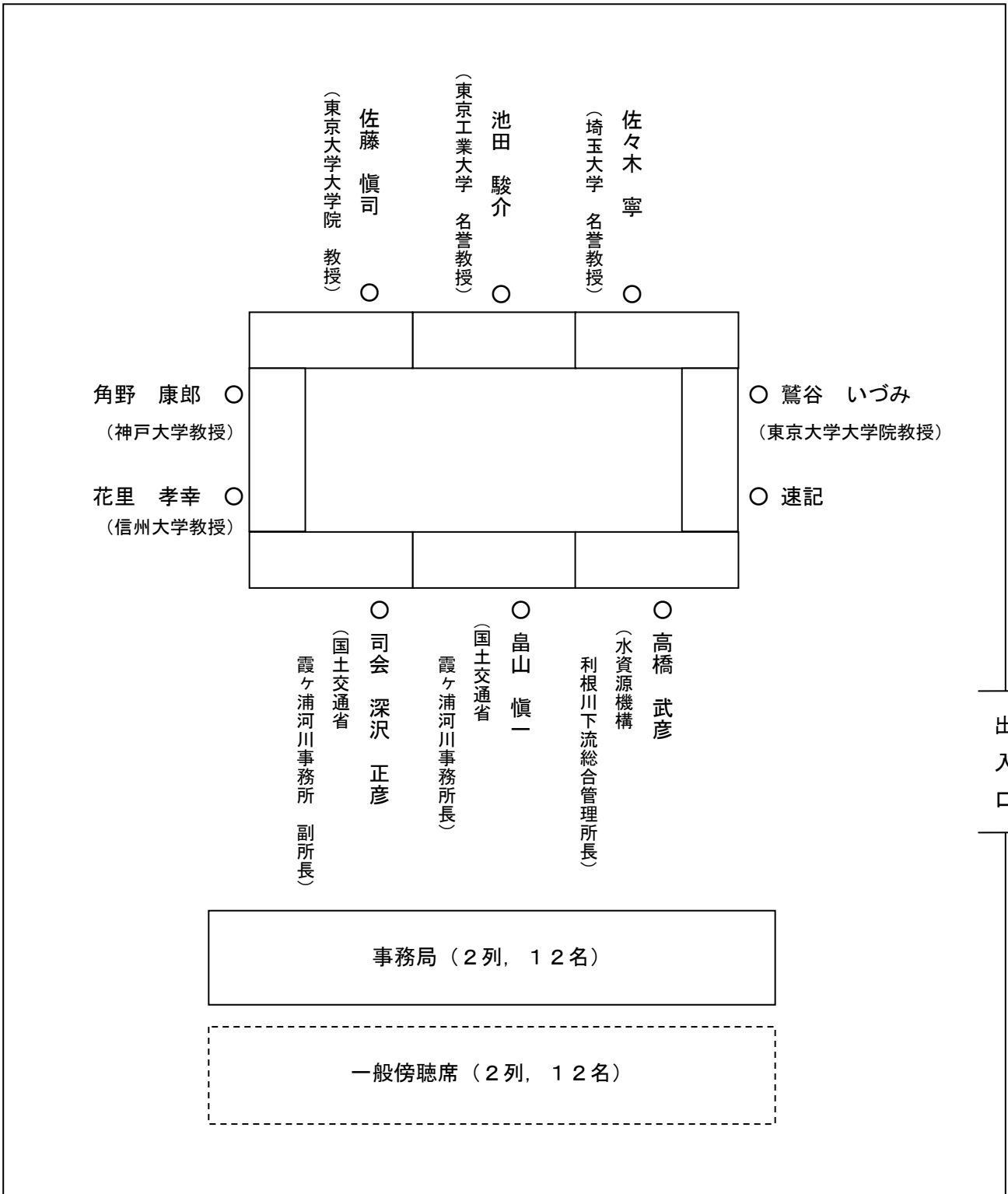
第14回 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会

座席表

平成24年12月11日(火)

中央区立 築地社会教育会館 2階、第一洋室

東京都中央区築地4-15-1



霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会 運営要領

1. 検討会設立趣旨

国土交通省霞ヶ浦河川事務所と水資源開発公団霞ヶ浦開発総合管理所では、絶滅危惧種であるアサザを含む霞ヶ浦の湖岸植生帯の減退を改善するため、湖岸植生の保全及び新たな創出を目指し、平成12年度から2カ年にわたり、「霞ヶ浦の湖岸植生帯の保全に係る検討会」で検討を行った。

その結果、緊急的な対応が必要と提言された緊急対策地区11地区において、平成12年度～13年度にわたり湖岸植生の緊急対策工を整備した。また、検討会では、湖岸植生の復元は未知な点が多いことから、モニタリング調査を行いつつ、調査結果に基づいた順応的な管理（アダプティブマネジメント）を実施し改善していくことも提案され、平成14年度からモニタリング調査を実施している。

以上の経緯を背景に、国土交通省霞ヶ浦河川事務所と独立行政法人水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所は、緊急保全対策工の設計水位をY.P.+1.3mであることを前提とし、モニタリング調査結果に基づく緊急保全対策の評価を行うこと及び今後の湖岸保全対策のあり方を検討することを目的として、「霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策評価検討会」（以下評価検討会という）を設置することとする。

2. 検討事項

- (1) 霞ヶ浦湖岸植生帯の緊急保全対策の評価
- (2) 評価結果を踏まえた順応的管理手法の検討
- (3) 今後の湖岸保全対策のあり方に関する検討

3. 検討の進め方

- (1) 評価検討会は学識者からなる委員によって構成される。
- (2) 評価検討会は、公開を原則とする。
- (3) 科学的な立場から評価・検討を行う。
- (4) 検討結果の公表は、国土交通省霞ヶ浦河川事務所と独立行政法人水資源機構利根川下流総合管理所が行う。